

自然観察おもしろ講座

冬だって楽しい！！ 生きものさがし

小坂 裕子(白井市)

日 時：2024年1月20(土)10時～12時、天候：曇り

場 所：21世紀の森と広場 みどりの里～つどいの広場(松戸市)

参加者：大人15名 子ども8名

講 師：小川・小坂、スタッフ：渋谷子・三嶋、田島・宮崎・相吉

下見会の時は 菜の花にニホンミツバチ・アブ、丸太の下には動くムカデ・ハサミムシが多く見られたが、当日は雪予報が出るような寒さになり、虫の気配なくスタートしたが、参加者に貸し出した虫めがねが大活躍！ 探偵のように幹や葉の裏表を真剣に探し、誰かが何か発見すると、皆で喜び合い、虫めがねで小さな卵や虫を丁寧に観察できた。落ち葉堆積場では、シャベルで自由に掘り起こして虫を探した。子どもたちは、虫よりも高く積み上げられた落ち葉の上を走り回り、見守るご両親は「こんな体験はできないから」と嬉しそう、その間に一人参加の大人の方々が真剣に虫を探し、大きなカブトムシの幼虫を発見。順番に手に載せてカブトムシの大きさと重さを体験できた。

最後は、今回のメインとも言える、モグラのトンネル調べ。各自、選んだ塚をシャベルや素手で崩して竹の棒を穴に差し込んだ。なかなか入らず苦戦している方もいらしたが、穴の複雑な形もご理解できたのではと思う。寒い時期なので、予定通り後半30分は、暖かい室内へ移動し、モグラの巣の様子や生態をクイズ方式で行う。

今回の観察会を通し、寒い冬を工夫し命を繋ぐ虫や鳥たちの姿を見て、春になり、生き抜いた虫たちとの出会いが特別なものを感じて頂けたらと思います。

【観察したものの一部】

ヨコヅナサシガメの幼虫、クヌギカメムシの卵と成虫の死骸、ニイニイゼミ抜け殻、ナガコガネグモ卵のう、ジグモの巣、カブトムシ幼虫、コガネムシ類の幼虫、蛾類の蛹、イラガの繭、チョウセンカマキリ卵鞘、ハラビロカマキリ卵鞘、ダンゴムシ、ツヤアオカメムシ、カニグモの仲間、テントウムシの仲間、ヤマガラ貯食と思われるエゴの実、ワタの花の綿毛、菜の花、キンカン葉や実、モグラの穴や塚



生きものたちは
どのように冬を
過ごしているのか
どこにどんな
生きものが
かくれているのか
探しましょう